



### 酒蔵見学で一句

お酒は「百薬の長」だと思って毎日少しずつ飲んでいきます。度数当てクイズは家内が全問正解、私は一問だけでした(笑)。今日は実は俳句の材料を探しに来たんです。構内で酒屋神を祭る小さなお堂を見つけて一句。寒造り杜氏おるがむ松尾神



酒蔵開放で高清水を訪れた藤原清治さん・洋子さん(広面字大巻)

おしゃべり

### プロのお話を堪能

漫画家の倉田よしみ先生、いがらしゆみこ先生、三浦みつる先生の大ファン。いがらし先生は、キャンディキャンディみたいにキュートなんです。ハタハタやきりたんぼ、秋田の地酒にみんなご満悦の様子。軽快なお話に笑いが絶えませんでした。



あきた夜学に参加した田中美樹さん(右)と木元玲子さん

かわらばこ



4月から分別収集になるペットボトルです。ヨロシク!!

### ペットボトルは分別収集で

僕たちペットボトルの出し方のポイントを教えちゃいます。♻マークがあるかチェック キャップをはずし、中を水洗いもやせないごみ用の透明な指定袋へ(20リットルや30リットルの小さい袋もあるよ) スタートは4月、月2回の収集日に出してね。



佐々木さん(右から2番目)と体育指導委員のみなさん

# ひと

## 体育指導委員の 佐々木 隆さん

「一本だよ!」。愉快な笑いが漏れるなか、往年のガキ大将に戻ったような元気な声が響きました。初めて実演を見たまわりのみなさんは、空気入りの刀を手にして、さっそくチャレンジしてみます。パソコン! 「一本だ!」まだまだ! 「一本だよ!」。愉快な笑いが漏れるなか、往年のガキ大将に戻ったような元気な声が響きました。

地域のスポーツ講習会で実技指導を行ったり、スポーツ大会で裏方役を務めたりしている体育指導委員をご存知ですか。おおむね小学校区ごとに、あわせて八十人のかたたちが活動しています。二月二十日には、指導委員のみなさんが集まって、ニユースポーツの体験研修会が開かれました。当日体験した種目のひとつが「スポーツチャンバラ」。昔懐かしいチャンバラごっこを競技形式にしたもので、空気の入った柔らかい棒で打ち合います。「ルールは簡単。相手のどこかにパソコンと当たれば勝ちです」と、このユニークな競技を紹介した体育指導委員の佐々木隆さん(豊岩豊巻)。「試合になると、子どもたちは夢中になって動き回りますよ。体育指導委員が上手に審判して、たくさんのお子もたちに自由奔放に遊んでもらおうと思っています。」

## チャンバラがスポーツになった

## 市長ホットライン

市政への建設的なご意見を市長に直接お話ください  
フリーダイヤル ☎(0120)681・815  
3月25日(木)午前10時~11時



## 私の私読日誌 本の抄々

— 給仕君奮闘記 —



市長 石川 錬治郎

本書の著者、鈴木富次郎氏は若い頃の一時期、魁新報社に「給仕編集局庶務係」として四年三か月勤務した経験がある。その後、高校を卒業、家業の「おばなや」という雑貨商を営み、平成五年まで現役だった。このようないわば秋田の庶民の「自己史」ともいってべき内容である。

最近では、私もこのような「自己史」を多く目にするようになったが、その多くは文字通り「自己史」であり、そのなかに普遍性を具備しているものはなかなか見あたらないと思っていた。

しかし、本書は書名にならっている「給仕君奮闘記」をはじめ、「音」米「学校」病氣「巷の風」巷の灯「思い出す人々」「裁判」の項のどれをとっても、鈴木さんの人柄そのものを感じさせながら、秋田市の歴史の断面を見せるものにもなっている。

「給仕君奮闘記」の項には、終戦前夜の土崎空襲の様子が記されている。翌朝の様子を次のように描写されている。

『到着したら、まさに惨憺たる有様で、土崎港の外科、内科は勿論、眼科、歯科に至るまであらゆる医者と名のつく人が全て蒼竜寺に集められ、負傷者の手当をしていた。製油所近くの空地には未だ不発弾があるので、注意せよとの事であった。私は電柱に突き刺さっていた爆弾の破片を石で叩き落して、記念に三個持ち帰った。』

やがて、帰社し、編集局で正午の玉音放送を聴いた。井上広居社長は全社員を編集局に集め、自らは羽織、袴に威儀を正してじっと聴き入っていた。学のない私には内容がよくわからなかつたけれど、社長は大声を挙げて泣いた。『そのほか、思い出す人々』には知り合った進駐軍の情報将校マック・ブルームさんからもらったストレプトマイシンによって重症の肺炎を治してもらったこと、その後五十年もかけてその命の恩人を捜したことなど、アメリカと日本の戦後史を彩るような話もあって興味はつきない。

この本の「発刊に寄せて」に秋田高校で同級生だった渡部誠一郎氏(秋田市立千秋美術館館長が次のような一文を寄せている。『富さんの優れた文章に、こんな拙文を寄せたことを恥ずかしく思う。なぜ恥ずかしいのか、すべては本書を読んで頂ければ、水解することである。』「自分史」の傑作として広く世に一読を奨めたい。富さんが、私の生涯のほとんどを燃焼した「秋田魁新報社」の、かつて給仕くんだったとは、詳しく知らなかった。こちらは新聞記者を辞めてからも、「抜かれた」のである。富さん、この世の生を享けられたことの見事な物証を残されて、本当におめでとつ。』

「本の抄々」は本号をもって終わります。「愛読ありがとうございます。」

# Book

図書館の新刊案内  
中央図書館明徳館 ☎(832)9220  
土崎図書館 ☎(845)0572  
新屋図書館 ☎(828)4215



化石は楽しい!

ニコラス・ウェイド/編  
富田幸光/監修 神保睦/訳  
何億年も前の生命の起源、進化、絶滅、そして人類の起源の謎を化石は説き明かしてくれます。本書は「ニューヨーク・タイムズ」の科学欄に掲載された、化石発掘の最新状況をまとめたものです。

一般書

民と官~2001年役所と役人はこうなる 行革700人委員会/著  
宇宙短歌百人一首 宇宙開発事業団/協力  
たまらなく日本人 ツアコンは見た、おかしくも愛すべき人たち 柳沢正/著

児童書

ぼくの水たまりバケツ エリサ・クレヴェン/作(幼児から)  
おとうさんおはなしして 佐野洋子/作(小学校低学年から)  
闇の守り人 上橋菜穂子/作(小学校高学年から)